

みどり
**緑川総合水系
環境整備事業**

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化
後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後3年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等
により再評価の実施の必要が生じた事業



1. 緑川流域の概要〔緑川の概要と特徴〕

【緑川の概要】

- ・流域面積 : 1,100km²
- ・幹川流路延長 : 76.0km
- ・流域内市町村 : 4市8町1村
- ・流域内人口 : 約54万人
(平成22年国勢調査)

■各区間の特徴

【緑川本川上流部(源流～鵜ノ瀬堰付近)】

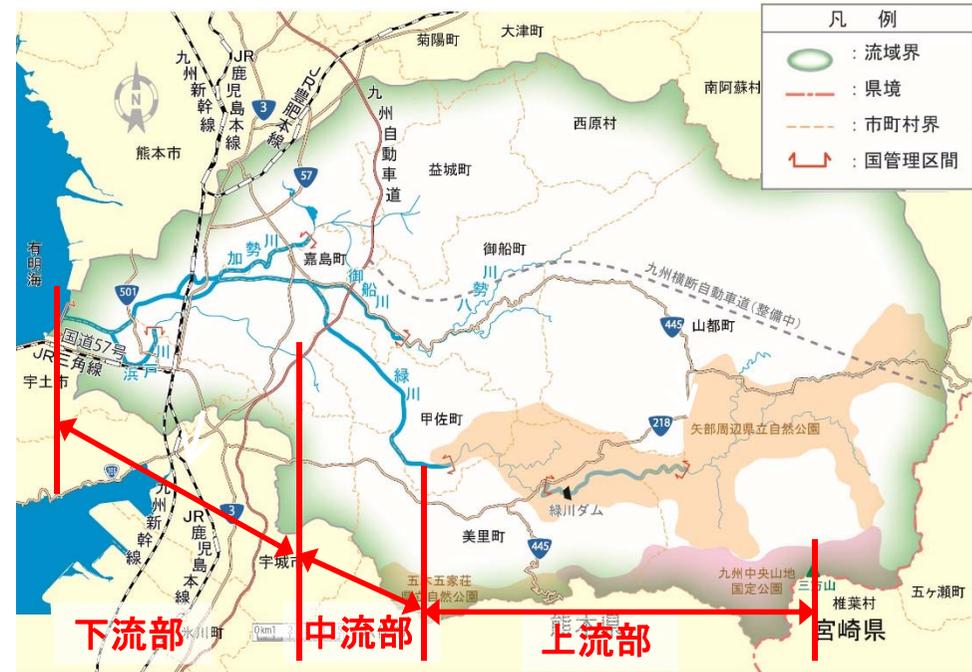
- ・九州中央山地国定公園等の豊かな**自然環境**に恵まれ、国指定重要文化財である通潤橋、霊台橋など数多くの**石橋が点在**し、観光地となっている。
- ・溪流部にはヤマメやカジカガエル等、緑川ダム湖にはワカサギ等の多様な魚類が生息し、ダム湖周辺にはミサゴ等の多様な鳥類が飛来している。

【緑川本川中流部(鵜ノ瀬堰付近～高田堰)】

- ・歴史的にも有名な鮎のやな場や、グラウンドゴルフ、キャンプやバーベキューが楽しめる**河川公園**が点在している。
- ・細長い平地を緩やかに蛇行しながら流下し、瀬・淵が連続しており、アユ、オイカワ等が生息し、砂礫の多い瀬では**アユの産卵場**ともなっている。河畔林は**多様な生物の休息場・採餌場**を提供している。
- ・田園風景の中を交互する瀬・淵、砂礫河原、河畔林が織りなす**多様な自然**が広がっている。

【緑川本川下流部(高田堰～河口)】

- ・広大な熊本平野が広がり、**熊本県有数の穀倉地帯**となっており、加藤清正による治水利水事業の構築物が残っている。
- ・生態系豊かな干潟、ヨシ原および汽水域は、シギ・チドリ類の飛来数が多く、重要種であるアリアケシラウオ等の生息地であることから**「日本の重要湿地500」**に選定されている。



【支川御船川】

- ・阿蘇外輪山を源流とし、**御船町市街地を貫流**し、緑川本川の中流部に合流している。上流域にある吉無田水源は熊本名水百選に選定されている。
- ・上流域では瀬と淵が連続しており、アユ、オイカワ等や、清流を好む**スナヤツメ、アリアケギバチ**等が生息し、水辺には**ツルヨシ群落**等が広がり、**良好な環境**を形成している。
- ・御船町では恐竜博物館新館が建設され、**多くの来館者**で賑わっている。

1. 緑川流域の概要〔緑川の利用状況〕

＜緑川の利用状況＞

- ◆ 緑川では四季を通して散策や釣りなどの日常的な利用をはじめ、河川敷では夏祭りや花火大会、**御船川・加勢川**では**精霊流し**など、毎年恒例の行事が継続的に行われており、地域の交流拠点となっている。
- ◆ 中流部に位置する「**津志田河川自然公園**」や「**グリーンパル甲佐**」等、**ピクニックや水遊び、グラウンドゴルフ**等が楽しめるスポットがたくさんあり、流域住民だけでなく、熊本市内外からの人々でも賑わっている。
- ◆ 上流部は**全国有数の石橋の宝庫**として知られており、つうじゅんきょう通潤橋をはじめとした国指定文化財、県指定文化財が数多くみられ、観光地ともなっている。
- ◆ 緑川流域では日頃より水辺空間を活かしたリバースクールやカヌー体験、**環境学習**、安全講習等の活動や**流域一斉清掃「緑川の日」**が行われている。



津志田河川自然公園(甲佐町)



グリーンパル甲佐(甲佐町)



がぁーっぱ祭り(御船町)



通潤橋(山都町)

1. 緑川流域の概要〔緑川水系の目標〕

＜河川環境の整備と保全に関する目標＞（緑川水系河川整備計画抜粋）

- ◆河川環境に関しては、動植物の生息・生育環境や繁殖地である溪流、瀬・淵、河岸、河畔林、河口干潟、ヨシ原、旧河道及び周辺環境等、多様な河川環境の保全・再生を目指します。
- ◆水質については、環境基準を満足する良好な水質を維持するとともに流域全体で更なる水質の向上を図ります。
- ◆河川空間の整備と適正な利用については、沿川地域の現状を踏まえ、**活力ある地域づくり**に資する川づくりを目指します。また、子供たちをはじめ、地域住民等が安全に安心して利用できる**人と川とのふれあいの場**の保全・創出に努めます。
- ◆良好な景観の維持・形成については、緑川の清らかな流れと豊かな自然が織りなす河川景観の保全に努めるとともに、^{くつわども}轡塘等の沿川各地に残る歴史的治水施設、歴史的街並み等に見られる**文化景観と調和のとれた河川景観の形成**を目指します。

1. 緑川流域の概要〔緑川総合水系環境整備事業の概要〕

＜事業評価(再評価)対象事業の概要＞

今回は、事業が完了している高田地区、津志田地区、及び御船地区の水辺整備の事業効果を含め、継続事業の甲佐地区の水辺整備について、事業評価(再評価)に諮るものである。



区分	箇所名	事業期間	備考
水辺整備	たかだちく 高田地区	平成18年度～平成21年度	平成26年度完了報告済み
	つしだちく 津志田地区	平成15年度～平成17年度	
	みふねちく 御船地区	平成24年度～平成26年度	
	こうさちく 甲佐地区	平成27年度～平成35年度	
緑川総合水系環境整備事業		平成15年度～平成35年度	

凡例	
●	完了事業箇所
●	継続事業箇所

1. 緑川流域の概要〔継続箇所の地域の取り組み状況〕

＜継続箇所の地域の取り組み状況（甲佐地区）＞

- ◆ **甲佐地区**では、「緑川リバーサイドパークin甲佐」(H13年3月)や「第6次甲佐町総合計画(H23年4月)」等において、**自然を活かしながら、地域に活気やにぎわいをもたらす町づくり**を目指すことを明記されている。
- ◆ 具体的には、甲佐町で実施する「^{あんしん}安津橋健康広場景観整備プロジェクト」のなかで、甲佐地区を含む施設整備を計画しており、緑川を軸にしたまちづくりが展開されている。
- ◆ 甲佐町では、小学4年生から中学生までを対象に緑川環境教育の一環として、体験学習「**こうさ環境子ども探検団**」が開催され、水質検査や水生生物の生息調査が実施されている。
- ◆ また、毎年緑川の日には地元住民による河川一斉清掃が行われ、隣接する「グラウンドゴルフ場」では町による維持管理が適切に遂行され、町民をはじめ多くの**利用者の憩い・活動の場**となっている。



釣り等の利活用状況



河川環境学習(水生生物調査)



地域住民による清掃活動(緑川の日)

2. 事業の必要性等〔緑川総合水系環境整備事業の概要〕

＜継続箇所の概要(甲佐地区)＞

1) 事業の必要性等

- ◆甲佐地区に隣接するグラウンドゴルフ場の利用は多いが、**様々な利用ができる憩いの場が求められている**。甲佐地区では、グラウンドゴルフ場や周辺からの緑川へのアクセス性、地面の凹凸や水たまりなどの**河川利用時の利便性や安全性が十分に確保されていない**状況であり、アクセス性、高水敷の有効活用、安全性等の確保が望まれている。
- ◆**地域の観光資源と一体**となり、流下能力向上等の取り組みにあわせた**河川空間を整備**することで、**地域の活性化や安全安心**に資するとともに、**河川巡視や河川管理の円滑化、河川利用の安全性の向上を図ることが可能**となる。

【事業計画範囲】



【現地の状況】

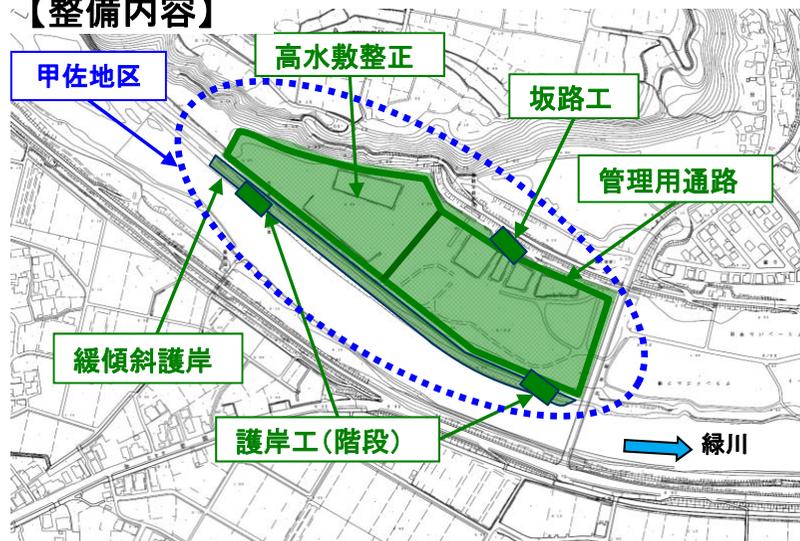


2. 事業の必要性等〔緑川総合水系環境整備事業の概要〕

2) 事業の概要・目的

◆緑川とグラウンドゴルフ場の周辺の魅力を活かした地域活性化、様々な世代が集う水辺拠点を創造し地域交流の促進を図るとともに、河川利用者の安全性の向上、河川巡視・河川管理の円滑化を図るため、高水敷整正、坂路工、護岸工(階段)、管理用通路、緩傾斜護岸を整備する。

【整備内容】



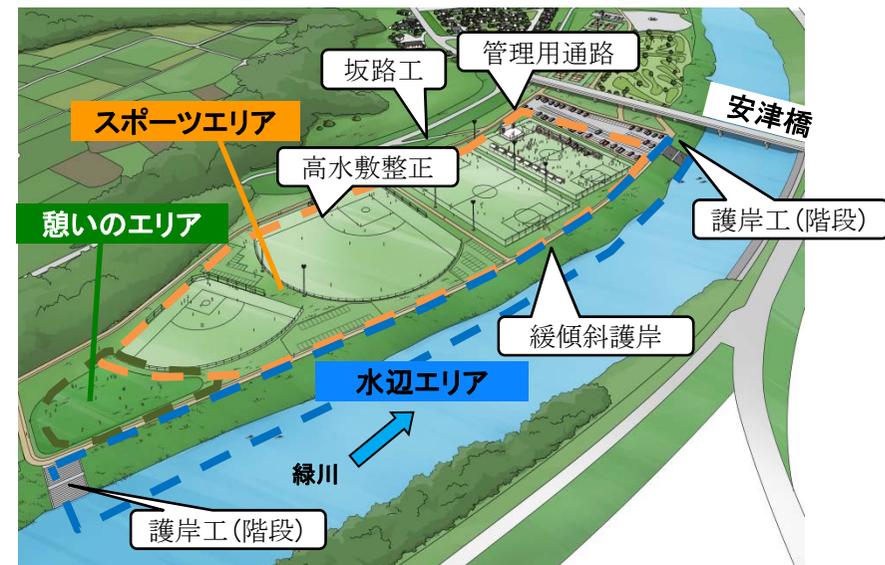
【工程表】

工種	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
高水敷整正		■	■						
坂路工		■							
護岸工(階段)				■	■				
緩傾斜護岸				■	■				
管理用通路		■							
モニタリング調査					■	■	■	■	■

【概要】

位置	緑川 24k400～25k200付近		
事業区分	水辺整備		
主な整備内容	高水敷整正、坂路工、護岸工(階段)、管理用通路、緩傾斜護岸、モニタリング調査		
事業費	5.1億円		
整備完了年	平成30年度	事業期間	平成27年度～平成35年度

【整備イメージ】



2. 事業の必要性等〔緑川総合水系環境整備事業の概要〕

3) 事業の推進体制

- ◆平成26年7月に地元関係者、学校関係者、甲佐町、国土交通省の連携のもと、「甲佐地区かわまちづくり協議会」を設立し、甲佐地区の整備プランや整備後の維持管理・利活用等について活発な議論を行い、平成26年3月には「かわまちづくり計画」が登録された。
- ◆現在、毎年緑川の日には**地元住民による河川一斉清掃が実施**されており、今後も継続して実施していくことになっている。
- ◆今後、**各種スポーツ大会の拠点**や、町民をはじめ多くの利用者の憩い・活動の場として利用していくことを予定している。



甲佐地区かわまちづくり協議会の開催状況



甲佐10マイル公認ロードレース大会



あゆまつり



あゆまつりでの花火大会



住民による一斉清掃

3. 前回評価時からの変化

項目	前回評価時 (平成26年度)	今回評価時 (平成29年度)	変更理由
総事業費	約15.4億円 高田地区 : 約4.4億円 津志田地区 : 約1.4億円 御船地区 : 約4.5億円 甲佐地区 : 約5.1億円	約15.4億円 高田地区 : 約4.4億円 津志田地区 : 約1.4億円 御船地区 : 約4.5億円 甲佐地区 : 約5.1億円	・甲佐地区においては、事業期間を1年短縮
整備完了年	平成31年度	平成30年度	
B/C	4.8	5.1	
B(便益)	91.2億円	104.5億円	
C(費用)	19.0億円	20.6億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を用いて現在価値に換算し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は事業費と完成後50年分の維持管理費を社会的割引率等を用いて現在価値に換算し足し合わせるにより算出する。

4. 事業の投資効果〔費用対効果等〕

＜費用対効果等＞

	事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B/C
全事業	15.4億円	—	104.5億円	20.6億円	5.1
完了事業	10.3億円	—	95.3億円	15.5億円	6.2
水辺整備	10.3億円	—	95.3億円	15.5億円	6.2
高田地区	4.4億円	高水敷切り下げ、管理用通路、護岸	59.9億円	6.9億円	8.7
津志田地区	1.4億円	管理用通路、護岸	13.1億円	2.8億円	4.7
御船地区	4.5億円	管理用通路、高水敷整正、護岸、水制工、床固工(分散型落差工)	22.3億円	5.8億円	3.8
残事業	5.1億円	—	9.2億円	5.1億円	1.8
水辺整備	5.1億円	—	9.2億円	5.1億円	1.8
甲佐地区	5.1億円	高水敷整正、坂路工、護岸工(階段)、管理用通路、緩傾斜護岸、モニタリング調査	9.2億円	5.1億円	1.8

	アンケート実施年度	アンケート配布数	有効回答数	集計範囲	集計世帯数	支払い意思額(円/月・世帯)
高田地区	平成22年度	1,000	217	半径10km圏内	84,935	200
津志田地区	平成22年度	1,000	178	半径10km圏内	12,232	260
御船地区	平成22年度	1,000	213	半径10km圏内	24,756	310
甲佐地区	平成26年度	1,500	202	半径10km圏内	10,797	343

5. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や事業手法、施設規模等の見直しの可能性

(1) 今後の事業展開

- ◆甲佐地区においては、今後も地域住民や関係団体、行政機関等と協力して事業を進め、平成27年度に事業に着手し、平成30年度に整備を完成させる予定である。平成31年度以降はモニタリング調査等を実施し、平成35年度に完了予定である。

(2) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆甲佐地区では、平成26年7月より地域関係者(地元代表, 学校関係, 関係団体等)や地元自治体(上益城郡甲佐町)、河川管理者(国土交通省)が参加する「甲佐地区かわまちづくり協議会」が開催される等、地域の協力体制が確立されており、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

(3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ◆甲佐地区の整備内容については、計画段階から「甲佐地区かわまちづくり協議会」において、議論を重ねた上で、河川管理面、河川利用面を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

(4) コスト縮減の方策

- ◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。

6. 対応方針(原案)

◆甲佐地区については、緑川とグラウンドゴルフ場の周辺の魅力を活かした地域活性化や様々な世代が集う水辺拠点を創造し地域交流の促進を図り、河川利用者の安全性向上、河川巡視・河川管理の円滑化を図るため、国土交通省では、高水敷整正、護岸(階段)、管理用通路を整備するものである。

◆国土交通省、地元関係者、学校関係者、甲佐町が参加する「甲佐地区かわまちづくり協議会」や「甲佐地区かわまちづくり実行委員会」を継続的に開催されるとともに、地域住民を主体とした清掃活動を実施するなど、地域の協力体制が整っている。

◆費用対効果についても十分高い事業である。

以上より、引き続き事業を継続することとしたい。